

拝啓 今年も早や1月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。冬の一番寒い時期ですが、時々日差しが明るく、春が近いことを思わせる日があります。朝の散歩のとき、霜が朝日に輝いて宝石をまき散らしたように見える景色を楽しんでいます。

今回も、同志会OBの村上劉治さん編纂の資料「小西芳之助先生金曜会語録」からの引用です。今回の引用の中で、「一つの教え（復活の教え）を実行して見よ」「与えられたことを真剣にやれ」「辛抱して時間を投資せよ」「社会の一隅を照らす人になれ」などの見出しをつけた文章がありますが、小西先生の教えは、明快で、実行する者となりたと思います。

同志会の金曜会に出席される時も、石館守三先生が高円寺教会で説教される時は小西先生が司会をされており、小西、石館先生のお二人は、お互いが大切な話を学生や教会員に話された時、非常に多くの機会にご一緒であったことに気が付きました。なんとという美しい友情が育ったことでしょう。

1月24日、愛知県安城市のお医者さんで、夏の「安曇野の集い」の主宰者の鳥居勇夫さんのお別れの会に参列して来ました。日野原重明先生の手紙が朗読され、その最後に、植村正久牧師が訳された「天に一人を増しぬ」というイギリス人の詩の一節が紹介され、大変感銘を受けました。

家には一人を減じたり 楽しき団欒は破れたり  
愛する顔いつもの席に 見えぬぞ悲しき  
さばれ天に一人を増しぬ 清められ救われ 全うせられし者一人を  
家には一人を減じたり かえりを迎ふる声一つ見えずなりぬ  
行くを送る言一つ消え失せぬ  
分かるる事の絶えてなき浜辺に 一つの靈魂は上陸せり  
天に一人を増しぬ  
家には一人を減じたり 門に入るにも死別の哀れに堪えず  
内に入れば空しき席を見るも涙なり  
さばれはるか彼方に 我らの行くを待ちつつ 天に一人を増しぬ

1月25日の高円寺東集会では、石館基さんを偲んで、いろいろな思い出を話しあいました。石館基さんが、集会のある日曜日には、神谷節子さんや石井和夫さんを迎えに、高円寺駅まで車で行かれていた思い出が印象的でした。

もう少しで春がやって参ります。今は最も寒い時期ですが、皆様もどうかお身体ご自愛のうえ、お過ごしください。

敬具

山口周三

平成27年1月26日

エンカウターの読者各位